

KOZOOM サロン 28 今月のテーマ 「心に残るテレビ番組」

野口幹夫

今月の KOZOOM サロン 28 のサブテーマは清水様から頂いた「海」と、太田様から頂いた「テレビ番組」の二つです。

「テレビ」といえば、あれとすぐ思い出すものがあるのです。「サンダーバード」です。

私は東芝でカラーブラウン管の開発製造の技術者として若い頃を過ごしました。拠点は川崎駅のすぐ裏にあった東芝本社工場でした。昭和 40 年頃です。試作実験室で初めて見たカラーテレビ番組はアメリカのペリーコモショウでした。きれいな色彩に思わず見とれました。

しかし初期のカラーテレビは今から思えば信じられないほど不安定なものだったのです。見ている間に受像管の原因で画面の周辺で色がずれていくのです。放送側も問題を抱えていたようです。米国が開発したこのカラーテレビ方式を NTSC 方式と呼んでいますが、その略

称を“Never Twice the Same Color”だといった悪口を言われたくらいでした。複雑なシャドウマスク式ブラウン管の金属マスクの、熱膨張によるずれが色ずれの原因でした、それを防ぐためにバイメタルの支持ばねを入れたりしてさらに複雑なものになっていきました。すべての電子管の中で最も内蔵物が多いものになったのです。中が超

真空で熱陰極から発する電子が飛び交う世界ですから、懸念は長持ちするかというカラーブラウン管の寿命でした。そこで我が家でも家庭に寿命試験用のカラーテレビ受像機を預かることになりました。むろん大歓迎 1966 年のことで、世間の方はまだ白黒テ



レビが普及の途上にある時に我が家はカラーテレビを楽しんだのです。1歳になった息子と一番に楽しんだのが人形劇「サンダーバード」でした。日曜日の夜6時からだったかと思えます。

物語は南太平洋の孤島トレーシーアイランドです。

ここが秘密基地。父は元 NASA の宇宙飛行士、5人の息子がいます。この一家で国際救助隊をやるのです。まず宇宙に見張りの宇宙ステーションを配置



し、世界上の危機を見守ります。ロンドンには秘密の支援エージェント レディペネロープがいます。事件は次々に起きます。彼らの高度な技術を盗もうとする悪党も絡んで物語は複



雑です、毎回緊迫したストーリーの面白さと、奇想天外なしかし科学的根拠のしっかりあるロケットたちの活躍にすっかり魅了されました。勇壮なオープニングミュージックも今も耳に残っています。

息子は1歳から5歳くらいまでサンダーバードと一緒に育ちまし

た。1年生の文集に将来の夢と題して「ロケットのそ
うじゅうしになりたい。わけは宇宙のいろいろのこ
と
がわかるから」と書きました。30年後その夢を実現
させました。

「サンダーバード」は、私にとっても心に残るテレビ
番組です。

